2024.3.26

２０２３年度大阪女学院中学校・高等学校事業報告

１．【報告の形式と方法】

（1）形式

２０２３年度事業計画書（１６項目４８要素）のフォーマットに準じて報告する。

（2）参照と分析

報告にあたり、以下のデータ等を参照した。
①学院の収支決算報告書
②大阪私立中学校・高等学校連合会の報告書
③中学校・高等学校の各種報告データ
④２０２３年度内部評価・レビュー

（3）報告

①２０２３年度の事業計画（１６項目４８要素）のうち、重点課題につい評価と改善点を報告する。

２．【概況】

（1）２０２３年度を振り返って

A　3年目の新型コロナウィルス対策と危機管理

２０２２年度より政府の「出口戦略」にともない、教育活動の制限は順次緩和された。本校も規定の感染対策を行いながら、ほとんどの活動を２０１９年度ベースに回復した。

いっぽう体育大会では熱中症ならびに過換気（過呼吸）症候群による集団健康被害が発生した。原因は当日午後の快晴のなか日射時間が長かったこと、コロナ禍での屋外活動制限により暑熱順化が遅れていたこと、加えて運動時の「脱マスク」が推奨されても過去２年間の慣習・精神的な不安から着用を継続する生徒がいたことなどが挙げられる。

こうした反省を踏まえて学内の危機管理・マニュアル改訂・予防・訓練を見直した。特に夏期の熱中症対策は熱さ指数に基づいて活動時間・場所の制限、早朝・夕刻の涼しい時間帯の活動推奨を行った。今後も安全・安心な教育活動のため、様々な観点から危機管理の更新を行う。

B　社会・環境変化への対応

出生率低下による２０３４年「少子化の谷間」を前提に、当座の課題として以下の４点を継続している。

①日本の少子化　（２０３４年の１３歳人口は２０２０年度比７０％への対応）
②グローバリゼーションの加速　（世界規模での経済をベースにした基準の統合・画一化への対応）
③ダイバーシティへの対応　（他種多様な属性、文化、価値観から成る社会で生きるために）
④危機管理の重要度増加　（災害、経済危機、政治危機のなかでも平安に生きるために）

C　２０２３年度の進捗

前年度より継続し、フレームとプログラムの再構築の議論を重ねた。感染拡大やロシア・ウクライナ戦争による経済・国際社会の変化も加速要因である。２０２２年度内に定めた短期の達成事業は以下の通り。

①２０２５年度より専任教員の同一５日間勤務の実施
②ミッションステートメントおよび新学習指導要領に基づく新プログラムの再構築
③生徒の主体性を伸長するための新規学習支援の開始。

（2）生徒募集概況と動向

２０２４年度入学者および全校生徒総数は以下の通り。（5月１日比較）
２０２３年度の比較では中学入学生がやや増加。高等学校入学生は減少傾向が続く。

①中学校　１年生入学者数（前年度比）　１７８名（＋１３）
　　生徒総数（前年度比）　５０９名（＋１７）
②高等学校１年生入学者数（前年度比）　２４２名（－２７）
　　内訳：内部進学１３７名（－１８）、専願７７名（－８）、併願２８名（－２）、編転入他３名
　　生徒総数（前年度比）　８６９名（＋１５）
③中学校・高等学校　全校生徒総数　１，３６６名（＋２２）

２０２２年度は対面のオープンキャンパス、個別相談会をすべて再開した。加えて地域ごとのサロン形式の説明会、個別のキャンパスツアーなども継続しアクセス数は増加した。中高とも志願者・入学者は過去３ヶ年で平均的、在籍数は微増。

関西圏の中学入試志願者は前年度より増加、大阪府の高校入試志願者も増加した。これは予測不可能な未来に対して府内の公教育以上に私学に対する期待のあらわれと推測する。他校との差別化、在学時・卒業後の満足度の向上を継続する。

本校のミッションステートメントを土台にし、時代や社会に即した内容の刷新は必須である。

中学校入試の他校比較では、本校の志願者数はけっして多くないが合格者に対する入学率は高い。以前からの傾向として一定の「コアファン」の存在がある。このコアファン層を 20%増加、入学率を 70%に近づけることが当座の目標である。

３．【中学校・高等学校の教育目標と IB 学習者像、学習指導要領の関連】

<table>
<tr><th colspan="3">大阪女学院は、キリスト教に基づく教育をめざし、神を畏れ、
真理を追求し、愛と奉仕の精神で社会に貢献する人間を育成する。</th></tr>
<tr><th>大阪女学院中・高教育目標</th><th>ＩＢ（国際バカロレア）学習者像</th><th>文科省学習指導要領</th></tr>
<tr><td>●すべての人間は神によって創られたかけがえのない存在であると認識して、人権尊重の精神をもつ人間を育成する。

【愛】【親切】</td><td>●信念をもつ人
私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。</td><td rowspan="4">●正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を養うこと。</td></tr>
<tr><td>●自由で伸びのびした校風の中で、自立した人間を育成する。

【喜び】</td><td>●バランスのとれた人
私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。</td></tr>
<tr><td>●激しく動揺し、価値観が変化する現代社会の中で、どのような困難にも打ち克って明るく前向きに生きる人間を育成する。

【平安】【自制】</td><td>●心を開く人
私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見いだし、その経験を糧に成長しようと努めます。
●挑戦する人
私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。</td></tr>
<tr><td>●正しい知識を身につけさせ、日常生活の雑事をこえて物事の本質を見極め、国 際的視野で物事を見る力を持たせる。

【善意】</td><td>●探究する人
私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。
●知識のある人
私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>●幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと
●個人の価値を尊重して，その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。</td></tr>
</table>

大阪女学院中・高教育方針	ＩＢ（国際バカロレア）学習者像	文科省学習指導要領
●確かな学力を身につけさせ、生涯にわたって学習を続けていく基礎を確立させる。 【誠実】	●考える人 私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。 ●振り返りができる人 私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。	●伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。
●豊かな情操、高い知性、思いやりの心をもって自分を生かし、他の人を生かす人を育成する。 【寛容】【柔和】	●コミュニケーションができる人 私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。 ●思いやりのある人 私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。	

※表は大阪女学院中学校・高等学校の教育目標と、ＩＢ（国際バカロレア）および文部科学省の学習指導要領とを比較し関連付けたものである。なお【　】のキーワードは聖書（ガラテヤ 5:22-23）より引用した。

本校の教育目標に対してＩＢのそれは親和性があるゆえに導入した経緯がある。

「国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。」（IB の教育理念）

新しくなった文部科学省の学習指導要領は、ずいぶん本校のものと近しくなった。

「予測困難な社会の変化の中で豊かに生きるためには、変化に対して受け身で対処せずに、むしろ目指すべき社会像を議論し、共有し、実現していくことが重要となる。一人一人が他者との関わりの中で『幸せ』や『豊かさ』を追求できる社会であるべきであろう。Society 5.0 において人間らしく豊かに生きていくために必要な力は、①文章や情報を正確に読み解き、対話する力、②科学的に思考・吟味し活用する力、③価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力が必要であると整理した。」（文科省・学習指導要領改訂のポイント　抜粋）

第一に、全ての活動における（1）方法　（2）評価　（3）振り返り　（4）改善　が重要である。
第二に、実践のための資源を測定し必要を満たす工夫が求められる。
第三に、践に生徒とスタッフのマインドセットと本来の資質へ回帰（Revival）することである。すなわち、
・生徒は、自主・自立・自律の姿勢を身につけ、学び成長することの喜びを経験すること。
・教員は、Teacher（教授者）だけから、Facilitator（促す人）、Coach（導く人）、Mentor（助言者）への回帰。

４．【２０２３年度事業評価・課題と改善点】

（1）内部評価の調査方法・調査対象、評価方法

・Web アンケート（Google フォーム）による無記名回答

中学校生徒	2023 年 12 月実施	回答（441 / 492）
高等学校生徒	2023 年 12 月実施	回答（738 / 873）
保護者	2023 年 12 月実施	回答（495 / 1365）
専任教職員	2024 年　2 月実施	回答（31 / 64）

（2）各事業項目の分析・改善点

各項目・要素別の評価を分析し、改善点を提言する。

A 財政と基本的な資源

主な Positive ポイント：①施設（中高生、保護者）　②ICT 支援　③衛生・保健
③建学の精神と礼拝による涵養（全対象）
主な Negative ポイント：①トイレ（高校生）　③空調（高校生）

改善点：①教育活動充実のための施設拡充、高校のトイレ改修（東校舎）、高校の空調の改善（室内温度のムラ）
②建学の精神とキリスト教教育の重要性は全校的に評価されており、引き続き現代の文脈の中で具体的な行動や生き方に結び付く遺産（legacy）継承に努める。

B 組織内要因-1 生徒支援

主な Positive ポイント：①行事（中高生）　②探究活動の ICT 利用（中高生）　③図書館利用（中学生）
④言語教育（全対象）　⑤国際理解教育（全対象）
⑥人権教育全般（全対象）　⑦生活指導（中高生、保護者）
⑧進路指導（中学生、保護者）　⑨コミュニケーション（中高生）

主な Negative ポイント：①学習支援（全対象）　②図書館利用（高校生）　海外進路サポート（高校生、保護者）

改善点：①行事への関心・満足度は依然高い。今後も生徒主体の活動がいかに発展するか、教員のファシリテーターとしてのスキルが求められる。
②英語を中心とした言語教育とその基盤である国際理解教育は本校の生命線であるが、中学生と比較して高校生の満足度が 10 ポイントほど低い。高校英語科は改革を図る時期に差しかかっている。
③図書館利用は中学生のポイントが高く授業内でのラーニングコモンの利用や課題が要因であろう。高校生は一部のクラス（IB など）をのぞき利用率が低く、情報収集や探求のツールとしてネットアクセスの割合が多いと推測される。また今後は Ai の利用における学問的誠実性（Academic Honesty）の遵守が課題である。
④進路指導・支援に関する Positive ポイントは中学生が高校生を上回って入り、将来に向けて広い視野を持つことやマインドセットの効果が出ている。海外進路についても中学生のポイントが前年度より 10 ポイント近く高いのはそうした理由であろう。いっぽう高校生のポイントを高めるには、多様な進路選択（入試制度）に対する個別最適化が急務である。

C 組織内要因-2 スタッフ支援

主な Positive ポイント：①クラブ活動（中高生）　②チームによる生徒・保護者支援（中高生、保護者）

改善点：①教員の週 5 日勤務に伴うクラス形成の相互サポートに対する生徒・保護者の評価はおおむね高い。今後さらなる「働きかた改革」を進めるにあたり、生徒・保護者の理解を求めつつ、業務軽減システムやクラブ顧問の支援、、教職員間のコミュニティー形成、Servant leadership マインドの形成が急務である。

D 組織外への働き

主な Positive ポイント：①入試情報提供　②PTA 活動　③奨学金支援　③制服・ノベルティ　④地域社会貢献活動
（いずれも保護者）
改善点：①入試広報による情報提供とマッチング、独自のファンドによる奨学金制度など評価されている。
②今後、地域連携・貢献など今後も保護者と連携・協働する分野の拡充は本学の本質に関わる事業である。

E 総評

主な Positive ポイント：中高生・保護者の評価はいずれも 90 数%を超える。

改善点：①私立学校において帰属意識・母校への誇りを生徒・保護者が持てることは重要課題である。在籍生徒に占める姉妹および卒業生の子弟の割合が多いことは一定の評価を得ていると分析する。いっぽうで現在の事業評価を分析し、本校の普遍的な価値観を保ちつつ、未来志向の施策を継続的に開発し、賛同してくれる層の増加を目指す。